

わずかにうねる水平線を
肩先に留めながら
何という名の風を
わたしは待っているのだろう

けれど
海は黙して答えない
答えの代わりに
貝殻や小石を
こころのマス目に
そっと置いてゆくれた

若宮明彦「海辺にて」(※)より

特集

渚へ行こう！

ときめきのビーチコーミング

ビーチコーミング (beachcombing) とは、

海岸の漂着物をコレクションやアート作品にする趣味のこと。

欧米で始まり、海岸 (beach) を櫛 (comb) の目のように細かく観察することから、こう呼ばれる。

南からの対馬暖流、北からの親潮と季節風によって、多様な漂着物が打ち上げられる北海道の渚。

ビーチコーミングは、クリエイティブなときめきに満ちている。



シーグラスの魅力

函館市電の末広町電停から徒歩
約一分。日和坂の下に、民家を改装
した「シーグラスギャラリー海か

らの贈りもの」がある。シーグラスとは、海の漂着物のうち、ガラス製の瓶や食器のかげらが砂や波で研磨されて、すりガラス状になったもの。形も鋭利でなく、丸みを帯びているのが特徴だ。店主の広瀬七衣さんはこう語る。「二十年ほど前から海で集めてきました。派手さはないし色も限られていますが、自然が作ったやさしい風合いが魅力です」。小学生が買える価格を考え、十個で五百円。しかし一個二千円もするものや、希少さゆえの非売品もある。「実は、高いものから売れていくんですよ。熱心に集めている方々は、ご自分が持っているものを買入されますから。実際に触ってみて、しつくりくるものを選んでみてください」。

アクセサリー作家でもある広瀬さんの指南で、製作体験もできる。一点もののパーツに自分の創作を加えるので、世界に二つと同じものは

(写真上) 広瀬さんと優さんが大森浜を歩いて集めたシーグラス、シー陶器、貝殻。

(※)「海の詩集」若宮明彦・佐相憲一編、コールサック社、2016年

文=北室 かず子
写真=田淵立幸

ない。修学旅行の小中学生たちが夢中になるというのも、うなずける。函館近郊に住む個性的な女性作家二人の作品も置いている。その一人が優^{ゆう}さんだ。この店でシーグラスの

魅力を知り、文化センターの講座でワイヤーアートを習得して、両者を融合した作品を発表している。広瀬さんと優さんに、函館のシーグラス・ポイントを案内していただ



店内に並ぶシーグラス。シーグラスは緑や青の寒色系が中心で、赤や黄色の暖色系は極めて少ないのも特徴だ。



紫外線を当てると発光する希少なシーグラス。ウランウムが含まれたガラスに由来するためだそう。



砂や波によって丸く削られたシーグラス。昔懐かしいドロップのような質感だ。



広瀬さんが青森県種差(たねさし)海岸で拾った貝殻とシーグラスで作ったイヤリング。



夏の思い出に胸元に揺れるペンダントも魅力的。



水を入れたガラスの中にたたずむシーグラス。



流木や貝殻も多数あり、店内は海の雰囲気に満ちている。店の前からは函館港が見える。
●シーグラスギャラリー「海からの贈りもの」／函館市末広町21-24 ☎090・9205・2292。土曜・日曜・月曜・祝日の10:00〜夕暮れまで営業。



いた。場所は^{おおもり}大森浜。石川^{いしかわ}啄木^{たくはく}の像が鎮座する啄木小公園から浜に下りると、渚が東西に弧を描いて延びている。西には函館山と立待岬^{たちまちさき}、東には湯の川温泉^{ゆがわ}のホテル群。観光都市のまっただ中であつて、ザッブーン!と、怖いほど大きな波音が、腹の底まで響いてきた。潮の香りを胸いっぱい^{いっぱい}に吸い込みながら、二人に付いて無心でシーグラスを探すうちに、頭の中の雑多なものが消えていく。

優さんいわく「いろいろな方がビーチコーミングにいらつしやいます。シーグラスで絵を描いたり、ステンドグラスと合わせたり。流木や貝殻を拾う方や、生徒のために作品の材料を集める養護教諭の方にも会いましたよ」。この日も渚で砂を掻く^か女性が一人。「これなんか、いいわよ」と、広瀬さんが即座にシーグラスを見つけて差し出す。

優さんも「今度、広瀬さんのお店で会いましょうよ」。この女性は佐々木麻莉^{ささき まり}さん。夫の転勤で函館に来てビーチコーミングに魅了されたと言う。初対面の佐々木さんが、二人と旧知の友のように見えた。

「実用的な瓶よりも、食器や吹き



欧米からの旅行者に人気のシー陶器。



蟹の形をしたポップなビーチコーミング用グッズでシーグラスを探す佐々木さん。



大森浜で拾ったシーグラス。ガラスは無機物なので海洋生物の生体に入っても排出され、体内に留まった場合も分解されないで生化学的に問題ないとされている。ガラスは岩石の成分、シリカに近い。海の光合成の約半分を担う珪藻^{えいそう}(植物プランクトン)が殻を作るのにシリカは不可欠でもある(いしかり砂丘の風資料館、志賀さん談)。

ガラスで作られたらしいものは、よりきれいです。シー陶器、シータイルもあります。シー陶器は欧米の人に人気なんですよ。道南は江戸時代に蝦夷地^{えぞち}と上方を結んだ北前船^{きたまえふね}の航路ですから、昔の陶器の破片もあるかも」と広瀬さん。希少



なものを見つめるコツを聞くと、「それはないですね。その時、その渚に私がいたというめぐり合わせも含めて、全てが海からの贈りものですか」と、やさしい声で、しかしきっぱりとした答えが返ってきた。

広瀬さんは、軽井沢や湘南での暮らしを経て、夫と共に函館に移住。二〇一七年(平成二十九)の開店当時、シーグラスはほとんど知られていなかったという。病弱な夫は浜辺を歩くと元氣になり、一緒にシーグラスを拾ったものだった。ところが昨年、帰らぬ人に。今春、広瀬さんはシーグラスを集める旅に出た。「主人が亡くなって一年の傷心の旅でもありました。北海道新幹線と奥津軽いまべつ駅まで行き、ここからは普通・快速列車乗り降り自由の『青春18きっぷ』で名古屋まで太平洋沿岸を辿り、新潟から日本海沿岸に出て、函館に戻ってきました。一カ月間、海だけを眺めながら渚を歩いていました。多い日は一日二万五千歩も、かけがえのない人への思いを、

はぼろサンセットビーチ(羽幌町)

夕日が自慢の浜。北海道海鳥センターでは選りすぐりの美しいシーグラスが見られる(9月から変更の可能性あり)。



写真提供=木内さゆり

はぼろ



↑北海道海鳥センターで展示されているシーグラス。
写真提供=同館

ゆみがはま えさし 弓ヶ浜海岸(枝幸町)

枝幸町には古来、海から多彩な文化が渡来し、オホーツク文化期の黄金の刀も発見されている。オホーツクミュージアムえさしで漂着物を展示。写真提供=同館



オホーツクミュージアムえさしの展示。

もうらい 望来海岸(石狩市)

小さな岬と岬の間にある小石混じりの海岸。地層から落ちた貝化石や石炭、メノウが見られる。貝類の種類が多く、ウニやカニも打ち上げられている(※)。

石狩浜(石狩市)

本文参照

おくしり

奥尻島 西海岸(奥尻町)

対馬暖流に洗われる奥尻島は全島の浜がビーチコーミングのスポット。ココヤシをはじめ南国からの漂着物が多い。稲穂ふれあい研修センターに展示あり。

しりうち

知内川河口付近の海岸(知内町)

町内いたるところから海岸に下りられるのが魅力。メノウの漂着があり、宝石探しの気分も味わえる。知内町郷土資料館に展示あり。

写真提供=同館



本文参照

大森浜(函館市)

とまごまい

苫小牧ふるさと海岸(苫小牧市)



写真提供=えりも町

ひやくにんはま

百人浜(えりも町)



↑えりも町郷土資料館ほろいずみの展示。
写真提供=同館



北海道の ビーチコーミング ポイント

襟裳岬の北に約10kmも続く砂浜。軟骨魚類ガングエイ科の卵殻(別名「人魚の財布」)が見つかることも。日本の渚100選。えりも町郷土資料館ほろいずみ、襟裳岬風の館に漂着物の展示あり(※)。

渚の恵み

渚は受け止めてくれただろうか。

元北海道教育大学教授の鈴木明彦さんは、地質学、古生物学を専門とする科学者だ。漂着物を環境教育や自然史教育の視点から着目し、二十年以上前からビーチコーミングを大学の授業に取り入れ、一般向けの入門書も著している。『北海道の漂着物ービーチコーミングガイドー』(北海道教育大学海岸生物研究会、2006年)には「ビーチコーミングをするためには、まずは砂浜に行けばいいのですが、砂浜でも漂着物の多いところもある。ほとんど見られないところもあります。まっすぐな海岸線ですと漂着物は素通りしてしまい、沿岸流によってさらに運ばれてしまいます。しかし、その先に岬があったり、砂嘴が延びていたりすると、その影響で水の流れが変わり、どこかに引つかることが多いわけです」とある。また、その後の研究成果は、

再生事業によってできた人工の海岸。寒流系の貝類を中心に、近場(胆振地方)からの漂着物が多い(※)。写真提供=苫小牧港管理組合



石狩湾沿岸に打ち上げられたミンククジラ。2020年11月5日。写真提供=いしかり砂丘の風資料館

カラー版の『北海道の海辺を歩く―ビーチコーミング学入門』(中西出版、2016年)にまとめられた。さらに鈴木さんは若宮明彦^{わかみや}という詩人でもある。創造性豊かな詩で北海道詩人協会賞、北海道文化奨励賞、北海道新聞文学賞などを受賞し、北海道立文学館理事も務める。詩人・若宮明彦の作品を読むと、科学と文学の境界に渚があると感じる。「波打ち際の詩想」にはこんな表現も。「勢い良く駆け上がった波が、やがて力尽きて海に帰ってゆく時に、渚に残されるひと筋の線が波打ち際だ。波は何度も何度も波打ち際を書き換えてゆくが、その上

には海からの贈り物である寄り物^{よもの}が残される。これらの寄り物は、貝殻、椰子^{やい}の実、流木、海藻、鯨など様々である」(『海の詩集』所収)。

先住民族アイヌも、古来、渚に打ち上げられる「寄り物」を恵みとした。道内各地の地名に鯨を意味する「フンペ」が残るのは、鯨漁はもちろんのこと、寄り鯨として打ち上げられる恵みの存在も大きかっただろう。本州以南の漁村でも、建築資材となる材木や食料となる動物を漂着物から得た。

明治の文豪、島崎藤村^{しまざきとうそん}の「名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ」の詩は、漂着物を諷^{うた}ったものだ。官僚にして民俗学の泰斗^{たいと}となった柳田国男^{やなぎたにくにお}が、東京帝国大学法科大学在学中の一八九七年(明治三十)夏に、伊良湖岬^{いらろみさき}(愛知県)で見つけた椰子の実について、帰京後、友人の藤村に語ったことから生まれた。柳田は「そこにはさまざまな寄物の、立ち止まってちつと見ずには居られぬものが多かった。(中略)椰子の实の流れ寄っていたのを、三度まで見たことがある。(中略)遙かな波路を越えて、まだ新

しい姿でこんな浜辺まで、渡って来て居ることが、私には大きな驚きであった」と記している。この驚きが、後に「海上の道」を構想させ、黒潮と文化伝播^{でんぱ}に関する論考につながる。黒潮は、フィリピンや台湾東方に発して琉球列島、奄美群島^{あまみ}を北上し、主力は九州東部、四国、紀伊半島^{きい}の渚を洗って伊豆七島^{いずしちとう}、房総半島^{ぼうそう}東の方へ。もう一方は九州西部から壱岐^{いき}、対馬を経て対馬暖流として津軽海峡^{つがる}、宗谷海峡^{そうや}に至る。

対馬暖流の最北点で

この対馬暖流の最北到達地点が



20年間、観測を続ける石狩浜にたたずむ志賀さん。手にしているのは漂着した椰子の実。



いしかり砂丘の風資料館に展示された漂着物は、さまざまなことを物語る。プラスチック製品は、石油から作られているため、生体内で脂肪酸などと結びつきやすい。微細なプラスチックを摂取した海洋生物の被害、ひいては魚を食べる人間の健康問題に警鐘が鳴らされている。

北海道なのである。いしかり砂丘の風資料館の学芸員 志賀健司^{しがけんじ}さんはこう語る。「南からの対馬暖流に加えて、冬はシベリアからの季節風が吹き寄せるので、南と北からの漂着物に出会えるのが北海道です。漂着物の種類や量から、気候、海洋環境変動、人間生活の環境への影響がわかりますし、生物学、文化人類学、民俗学など多彩な視点を持つことにもつながるのです」。

特徴的な漂着物は、石炭。石狩^{いしかり}浜は石狩川河口にあり、石狩川流域の炭鉱地帯から出たものが、石

狩川を通して海へ出て漂着するのだとか。他には中国語が書かれた漁業用の浮きも多い。水深六千メートルに耐える米国製の観測用浮きといった珍客も。

志賀さんが最も注目する漂着物



←イカ漁の集魚灯、キセノンランプ。まるでオブジェのようだ。



地層が侵食されたり、炭鉱から廃棄されたと考えられる石炭。黄色い塊は松ヤニの化石である琥珀(こはく)。漂着物は地球の歴史も物語る。



魚群探知機。



外国語が書かれたペットボトルや缶詰のふた。

がアオイガイだ。「熱帯から温帯に生息し、本来、北海道近海にはいない生物です。アオイガイの漂着は海水温の高さを物語っています」。一方で既に死んだ遺骸が漂着した可能性は?と聞くと、「そこがアオイ



●いしかり砂丘の風資料館／石狩市弁天町30-4
☎0133-62-3711。9:30~17:00、火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始休館。300円。中学生以下無料。

おもちゃ。石狩川流域の少年が遊んだものだろうか。



ビーチコーミング愛好家に「オレンジ浮き」と呼ばれる中国製の漁業用浮き。秋から冬に流れ着くことが多い。

ガイのすごいところ。死ぬと体が貝から外れ、貝は海底に沈んでしまいうのです。漂着したということは直前まで生きていた証拠なんですよ」。

志賀さんは、二十一年間にわたり、石狩浜の気温・風向・気圧・海水温・塩分濃度などを観測・記録し、渚を約五百回往復して漂着物を観察・採集している。これを「海からの手紙を読むこと」と表現する。「データを取り続けることの重要性を教えてくれたのもアオイガイです。海水温が高い時に漂着数も多いことがわかりました。海は地球の表面積の約七割を占め、平均水深は約四キロもあります。底知れぬほど広大な未知の世界、異世界との境界線が渚なのです。これからも海からの手紙を休まず読み続けていきます」。



アオイガイは貝といってもタコの仲間、自ら作った殻の中に入って海を漂っている。薄く繊細で美しい形から熱心なコレクターもいる。アオイの葉の形に似ていることから命名。写真提供=いしかり砂丘の風資料館